

充実した探検活動にするために

1年生の場合…

学校探検をする時は、学校の時間の中で活動を行うわけですから、学校全体の動きの調整が必要です。たくさんの方の協力なしには、充実した活動は成り立ちません。

ここが
ポイント

学校全体の協力体制が必要！

活動内容によっては、高学年が特別教室で学習している場面を見せるのが良いこともあります。担任外の先生にさりげなく通ってもらったり、話しかけてもらったり、仕事をしてもらったりすることが良いこともあります。忘れてはいけないことは、「〇月〇日〇時間目に学校探検をやります。部屋を出入りしますから貸してください！」と一方的に伝えるのではなく、「学校事情の許す限り、最大限可能な範囲で貸していただく」という気持ちです。

【打ち合わせの内容例】

1年生の 学年打ち合わせ

- ・目的
 - ・大まかな単元の流れ
 - ・探検する場所
 - ・順番
 - ・日時
 - ・学級ごとで行うか
学年合同で行うか
 - ・グルーピングの仕方
 - ・ルール
- など

2年生と

- ・単元の目的を伝えた上で2年生の案内方法の確認
 - ・日時の相談・ペアの組み方・回る順番・ルール
- など

他学年と

- ・日時・探検の目的・特別教室の使用状況確認
 - ・授業中に校内を歩き回ることを周知・ルール
- など

担任外と

- ・目的・日時・入室可能教室の確認・活動場所
 - ・時間に合わせて出会わせたい場合はその可否
- など

ここが
ポイント

身近なところから徐々に視野を広げる

学校で生活している以上、最終的にはたくさんの教室の場所や名前、そこに居る先生の名前など1年生でも覚えなければいけないことは数多くあります。全部覚えるには順序を考えなければなりません。

入学当初は、玄関と教室まで。その他には、トイレ、水飲み場、保健室、職員室。休み時間過ごすようになると、図書室や体育館などを知る時期になります。他に身近なのは、音楽室、給食室などがあります。

また、学校の設計上、「教室や職員室がある2階は知っているけど、他の階も行ってみよう。」「高学年のいる教室も見てみよう。」などと視野を自然に広げる機会を作つてあげるのも一つの方法です。

単元構成によつては、2年生に案内してもらうのをきっかけに、「気になつた部屋を自分たちでも探検してみよう」と活動を広げていくことも考えられます。いずれにしても、学校事情を押さえ、子どもの実態を踏まえた上で、子どもの気持ちに寄り添つた活動内容にしていく必要があります。1年生なりの「はてな」を生む探検を目指したいものです。

ここが
ポイント

探検する時の人数は子どもの思いに合わせて

1年生はまだ学校のことがよく分かっていないので、最初は教師主導、もしくは2年生主導でみんなで列になって歩きます。学習中なので、秩序を守るためにも、まだ全員一斉に歩くのがよいです。特に入学式の時のように、しばらくは二人ペアで手をつなぎ、前の人を追い越さないで静かに歩いて回る。この秩序をもつた最初の歩き方がその後の探検活動に良い影響を与えます。

活動が進んでくると、自分なりに「見たい教室」「調べたい教室」が出てきます。その意思が出てくると、グルーピングが必要になります。グループでまとめるとする時は4～6人くらいのグループで回ることがあります。ただ、秩序を守つて活動するには、同じ思いをもつた二人か三人の少人数がベストです。人数が少ない方が小さい声で相談できますし、意見が分かれることも少ないです。

ここが
ポイント

教師はさりげなく見守る

学級単位で行う場合は、クラスの気になる児童を中心に必ず見て回ります。また、担任外の教職員の助けも可能な限り借りて、さりげなくお仕事をしてもらいながら子どもたちに出会わせることも良いでしょう。

学年単位で行う場合は、フロアごとに担当を決めて見て回るのがよいかもしれません。教師は可能な範囲で写真を撮り、活動の様子を記録します。そうすることで、自分が見ていない場で、どのグループがどこで、どんな活動をしていたか具体的に知ることができますし、評価にも生かせます。